

## 簡易地番連動システム

### 機能

地番が入った公図のCADデータと、対応する地目・地積・所有者・住所のCSVファイルを合体させたCADファイルを作成します。

### 用意するもの

地番が入った公図のSFCファイル  
対応する地番、地目、地積、所有者、住所のCSVファイル

### SFCファイルの条件

バージョンは2もしくは3です。  
線や他のオブジェクトが入っていてもかまいません。

### CSVファイルの条件

最初の1文字目が「！」（半角）の場合はタイトルもしくはコメントの行とします。入っていないとデータとして扱おうとしますのでエラーになるかもしれません。

少なくとも1行はタイトル行として入れて下さい。最初は必ず地番ですが、次からはどの順番でもかまいません。列の順番で文字の下にデータを差し込みます。サンプルを参考にして下さい。

地目と地積はタイトルのままのデータとして下さい。つまり、所有者と住所の欄は、タイトルと異なったデータでもかまいません。

データは地目だけ、という構成になっていてもOKです。地積は数値だけにしておいて下さい。単位は画面で追加できます。

### 出力チェック

画面に「地積に単位をつける」というチェックボックスがありますが、これにチェックを入れると、次のテキストボックスの内容が地積のあとに単位として追加されます。

スペースもそのまま入ります。デフォルトは  $\text{m}^2$  です。

## 動作条件

---

マイクロソフト社のD o t N e t F r a m e w o r kがインストールされている必要があります。

W i n d o w s V i s t a, W i n d o w s X PのS P 2以上ならそのまま動きます。もし起動しようとして、ドットネットフレームワークが入っていないという旨のメッセージが出ましたら、W i n d o w sのアップデートでセットアップして下さい。それだけで特別な設定は必要ありません。

W i n d o w s 2 0 0 0やM E、9 8でも動作します。ただし、最初はなかなか立ち上がらないかもしれません。動き始めれば、軽く動きます。

## 操作方法

---

プログラムを起動します。

「公図」ボタンを押して、C A Dファイルを選択します。

データのうち文字がグリッドに表示されます。

「連動」ボタンを押して、データC S Vファイルを選択します。

データがグリッドに表示されます。データの列順にかかわらず、地番・地目・地積・所有・住所の順で表示されますが、C A Dの書き込みはC S Vの順番です。

「出力」ボタンを押して、作成するファイル名を決めます。既存のファイルに上書きすることも出来ませんが、読込ファイルに上書きはできません。

「地積に単位をつける」チェックは、必要に応じて使用して下さい。

「作業開始」ボタンを押すと、出力ファイルに書き込みます。

文字が傾いている場合は、その傾きのまま次の行に書き込んでゆきます。文字フォントやサイズ、色やレイヤーは同じになります。

## 結果

---

読込ファイルで、連動させるデータが見つかったものは、左のグリッドの「該当」にチェックされて表記されます。

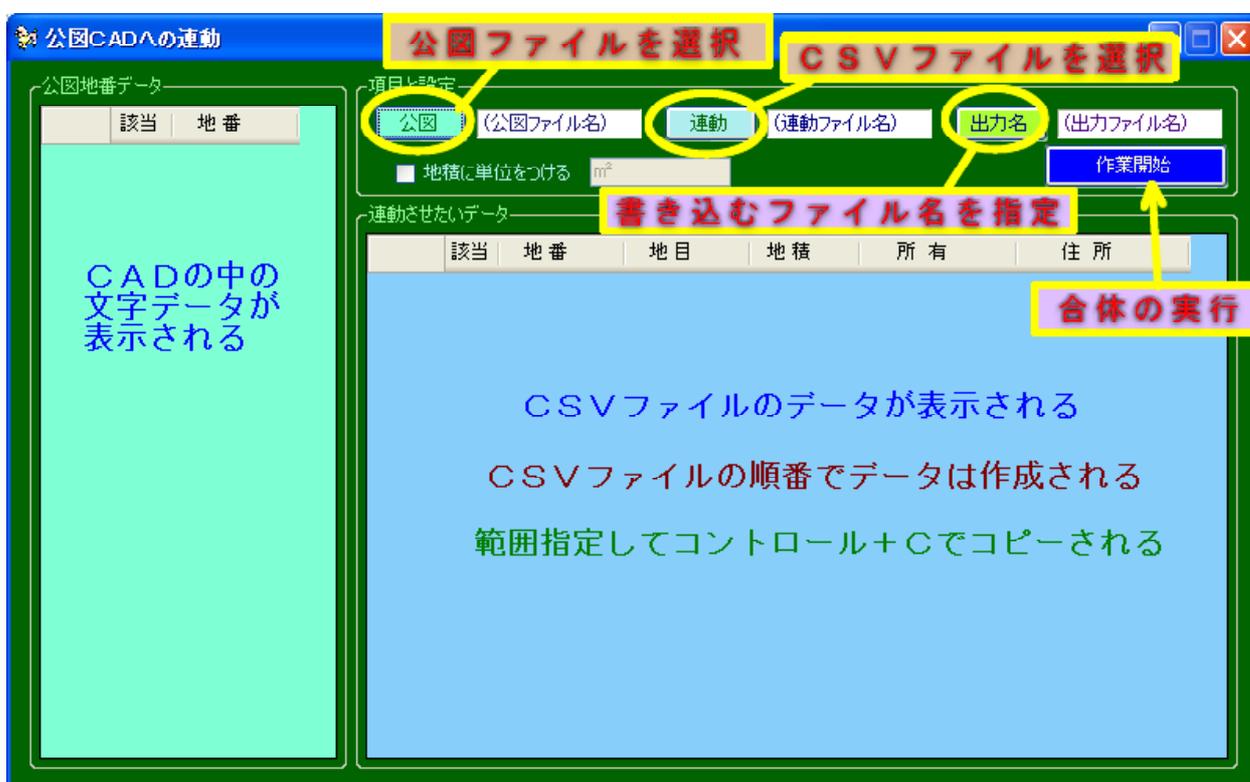
連動ファイルで、読込データの対象となるものがあつた場合は、右のグリッドの「該当」欄に、その回数が数値で表示されます。つまり、1 2 3番のデータの前に「2」と表示されていれば、C A Dデータの中に1 2 3が2つあつたという事です。なければ何も表示されません。

グリッドのデータは、それぞれグリッドの左上の□部分をクリックすると、グ

リッド全体が選択されて反転表示しますので、その状態で「コントロール」キーと「C」キーを同時に押すことによるコピー機能が使えます。それでクリップボードに入ったデータは、エクセル等に貼り付ける事ができます。グリッドに貼り付けることは出来ません。

エクセル等に貼り付けるときは、「形式を選択して貼り付け」を使用して下さい。その中で、「テキスト」または「Unicode テキスト」を選んで貼り付けて下さい。そのまま貼り付けると宇宙語が表示されるでしょう。

コピーは、選択したセルのみでもコピーできます。同じように選択したあと、コントロール+Cです。



#### □ 注意

エクセルに貼り付けるとき、地番が1-1だと1月1日と表記されてしまいます。これを避けるには、3番目の列（Aから貼り付けるときはC列）をあらかじめ「文字列」の書式設定にしておいてから貼り付けて下さい。

G I Sがあれば不要になるものですが、少しでもお役に立てれば幸いです。